

日本犬

古くから日本に住んでいる犬を日本犬といいます。おもに 秋田犬、甲斐犬、紀州犬、柴犬、四国犬、北海道犬の6犬種を指しますが、これらの犬種名のほとんどは日本の特定の地域と深いつながりを持っています。本来、狩猟犬として飼育された日本犬は、寒い天候にも耐えることができ、山を駆け回る高い身体能力を誇ります。これらの犬種の大きさや色はさまざまですが、くるりと巻いたり、前方に伸びて腰の上にかぶさったしっぽの形状、ピンとした三角の立ち耳、鼻先が長く突き出た頭部など、体の特徴に共通点もみられます。日本犬の体型は数千年前の犬の姿とほとんど変わっていないとされ、日本政府により天然記念物に指定されています。日本犬は一般的に、素朴、忠実、勇敢であることから、国内のみならず国外でも人気があります。また、非常に忠実でよそ者に警戒心を見せるため、番犬には最適であるとされています。



柴犬と秋田犬は日本犬の中でも最もよく知られています。柴犬は6犬種のなかでも最も小型で人気があり、登録されている飼育頭数も最も多いとされています。柴犬は、愛嬌がありきびきびと元気が良く、独立心が強いとされるほか、我慢強い、知能が高い、縄張り意識が強い、警戒心が強いなどの特性を持つとされています。

また、頑固、大胆、恐れ知らずと言った面もみられるようです。柴犬は、その他の日本犬と同様に、適切な世話や必要な運動を与え信頼関係を築くことすばらしい相棒となります。

骨の構造や大きさが現在の柴犬とほぼ同じ犬の骨が何千年も前の貝塚からたくさん発見されており、その多くは飼い主と共に埋葬されていたといわれています。このことから当時の人と犬の間には強い絆があったことがわかります。



秋田犬は6犬種のうち最大で、唯一大型犬に属します。日本でもっとも有名なのはハチ公という秋田犬ですが、当時その犬は、毎日同じ時間帯に東京の渋谷駅にやってくるには亡くなった飼い主の帰りを何年も待ち続けたといわれています。1935年の3月にハチ公が亡くなったときには、新聞にその記事が載り、大変多くの人があるその死を悼みました。現在、渋谷駅の外にはハチ公のブロンズ像が立っていますが、いまだにそれは国の史跡として忠誠心を象徴する存在となっています。